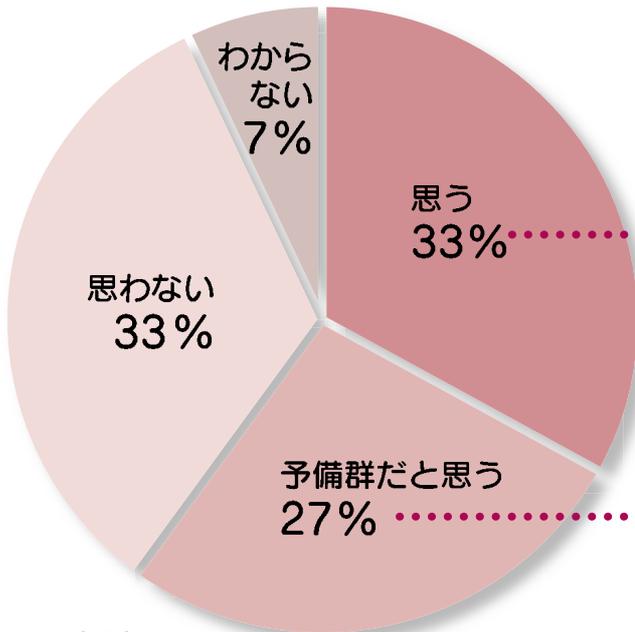


Q. ご自身はメタボリックシンドロームだと思いますか



6割の患者さんが、ご自身をMSおよび予備群だと思っており、その中の約7割の方が食事療法や運動療法などの療養指導を守れていないことがわかりました。加えて、MSと自覚のある方の4割が、医療機関でMSについての全般的な説明や、減量のための食事療法について指導をされていたようですが、その他の方はとくに指導はされていないと答えています。

さらに、MSに対して、患者さんがどのような行動をとっているかを聞いてみました。下の回答でわかるように、多くの方が、気にしていてもとくに行動には至っておらず、患者さんからはわかっ

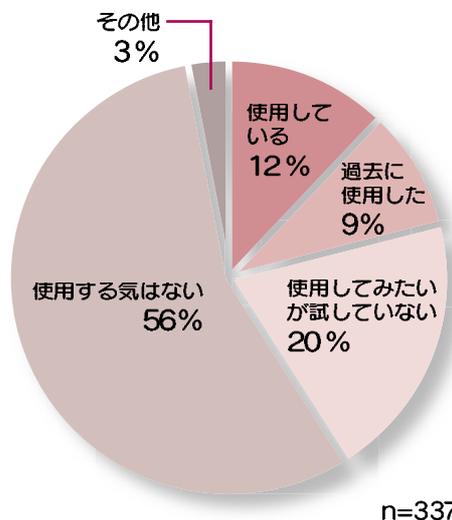
Q. MSかどうかを確かめたことはありますか? (複数回答可)

n=337

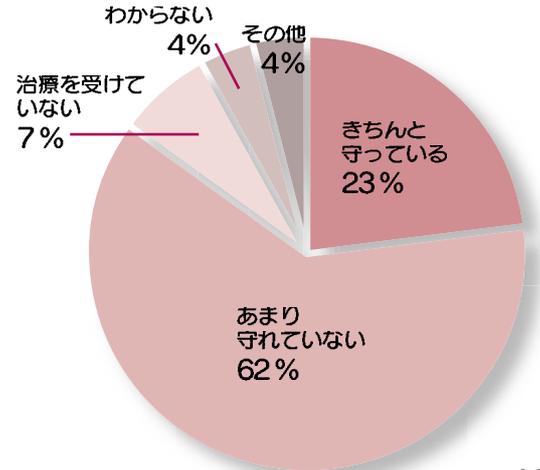
腹囲を測った	127人
診断基準の数値を	
照らし合わせてみた	140人
医療機関に相談した	39人
健診や人間ドックを受けた	42人
気になっているが確かめた	
ことはない	183人
まったく興味がない	18人

ているが継続は難しい”具体的に実践できる方法を教えてほしい”といった声が多くあり、自身で改善策に取り組む難しさが伝わってきます。市場開発が進む健康食品に興味を持つ患者さんにも注意が必要かもしれません。

Q. 改善や予防のために、健康食品や市販の薬をご使用になったことはありますか?



Q. ふだんの療養指導(食事療法・運動療法)は守れていますか?



Q. かかりつけの医療機関でどのような改善指導や治療を受けていますか? (複数回答可)

n=235

全般的な説明を受けた	91人
減量のための食事指導を受けた	90人
減量のための運動指導を受けた	67人
通院時の腹囲測定を指示された	12人
MS改善・治療のために	
定期的な通院を勧められた	24人
とくに指導されていない	95人

コメンテーター

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授・(財)保健同人事業団付属診療所所長)

本物の抗肥満薬が登場すればMSの特効薬になるのは間違いなく、巨大な市場となるでしょう。海外では既に承認された薬もあり、日本でも治験が進行中です。糖尿病の治療薬についても、抗肥満作用をもつ薬剤が登場することが期待されGLP1製剤やDPP4製剤が海外では人気との評判です。SU剤など、血糖値をさげれば体重が増えると、これまでの治療法の抱える矛盾に悩み、不本意な体重増加もやむなしと断念していた糖尿病やMSの患者さんには、新薬に期待できる時代が到来しそうです。